

情報通信技術の研究開発の取組について

令和6年10月25日
事 務 局



総合科学技術・
イノベーション
会議 (CSTI)

科学技術・
イノベーション
基本計画

統合イノベーション
戦略

SIP BRIDGE

統合イノベーション
戦略推進会議

関係本部
(デジタル、知財、健康・医療、
宇宙、海洋、地理空間情報)

サイバーセキュリ
ティ戦略本部

(1) ICT重点技術の研究開発プロジェクト

実用化に向け、あらかじめ研究課題、目標等
を設定した上で、研究を委託等

(2) 基金による重点技術の研究開発の支援 (Beyond 5G基金、宇宙戦略基金)

複数年度にわたって柔軟に研究開発を実施

(3) ICTスタートアップの支援

芽出しの研究開発から事業化までを一気
通貫で支援

(4) 国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) による研究開発

総務省が示す中長期目標に基づく基礎的・基
盤的な研究開発を、運営費交付金により実施

委託等

AI

量子通信

サイバー
セキュリティ

等

委託／助成

Beyond 5G

宇宙

助成

企業・
大学等
(NICTを含む)

スタート
アップ

共同研究、
連携 等

運営費
交付金



国立研究開発法人
情報通信研究機構

現状認識

国内外における情勢変化

- 世界秩序の再編の始まりと、科学技術・イノベーションを中核とする国家間の覇権争いの激化
- 気候危機などグローバル・アジェンダの脅威の現実化
- ITプラットフォームによる情報独占と、巨大な富の偏在化

加速

新型コロナウイルス感染症の拡大

- 国際社会の大きな変化
 - － 感染拡大防止と経済活動維持のためのスピード感のある社会変革
 - － サプライチェーン寸断が迫る各国経済の持続性と強靱性の見直し
- 激変する国内生活
 - － テレワークやオンライン教育をはじめ、新しい生活様式への変化

科学技術・イノベーション政策の振り返り

- 目的化したデジタル化と相対的な研究力の低下
 - － デジタル化は既存の業務の効率化が中心、その本来の力が未活用
 - － 論文に関する国際的地位の低下傾向や厳しい研究環境が継続
- 科学技術基本法の改正

科学技術・イノベーション政策は、自然科学と人文・社会科学を融合した「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資するものへ

「グローバル課題への対応」と「国内の社会構造の改革」の両立が不可欠

我が国が目指す社会（Society 5.0）

国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会

【持続可能性の確保】

- SDGsの達成を見据えた**持続可能な地球環境**の実現
- **現世代のニーズを満たし、将来の世代が豊かに生きていける**社会の実現

【強靱性の確保】

- 災害や感染症、サイバーテロ、サプライチェーン寸断等の脅威に対する**持続可能で強靱な社会の構築**及び**総合的な安全保障**の実現

一人ひとりの多様な幸せ（well-being）が実現できる社会

【経済的な豊かさと質的な豊かさの実現】

- 誰もが**能力を伸ばせる教育**と、それを活かした**多様な働き方を可能**とする労働・雇用環境の実現
- 人生100年時代に**生涯にわたり生き生きと社会参加**し続けられる環境の実現
- 人々が夢を持ち続け、コミュニティにおける**自らの存在を常に肯定し活躍**できる社会の実現

この社会像に「信頼」や「分かち合い」を重ねる**我が国の伝統的価値観**を重ね、**Society 5.0を実現**

国際社会に発信し、世界の**人材と投資**を呼び込む

Society 5.0の実現に必要なもの

サイバー空間とフィジカル空間の融合による**持続可能で強靱な社会への変革**

新たな社会を設計し、**価値創造の源泉となる「知」の創造**

新たな社会を支える**人材の育成**

「総合知による社会変革」と「知・人への投資」の
好循環

Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

- **総合知**や**エビデンス**を活用しつつ、未来像からの「バックキャスト」を含めた「フォーサイト」に基づき政策を立案し、評価を通じて機動的に改善
- 5年間で、政府の研究開発投資の総額 **30兆円**、官民合わせた研究開発投資の総額 **120兆円** を目指す

国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会への変革

- (1) **サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出**
 - ・ 政府のデジタル化、デジタル庁の発足、データ戦略の完遂（ベースレジストリ整備等）
 - ・ Beyond 5G、スパコン、宇宙システム、量子技術、半導体等の次世代インフラ・技術の整備・開発
- (2) **地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続なイノベーションの推進**
 - ・ カーボンニュートラルに向けた研究開発（基金活用等）、循環経済への移行
- (3) **レジリエントで安全・安心な社会の構築**
 - ・ 脅威に対応するための重要技術の特定と研究開発、社会実装及び流出対策の推進
- (4) **価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成**
 - ・ SBIR制度やアントレ教育の推進、スタートアップ拠点都市形成、産学官共創システムの強化
- (5) **次世代に引き継ぐ基盤となる都市と地域づくり（スマートシティの展開）**
 - ・ スマートシティ・スーパーシティの創出、官民連携プラットフォームによる全国展開、万博での国際展開
- (6) **様々な社会課題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用**
 - ・ 総合知の活用による社会実装、エビデンスに基づく国家戦略※の見直し・策定と研究開発等の推進
 - ・ ムーンショットやSIP等の推進、知財・標準の活用等による市場獲得、科学技術外交の推進

※AI技術、バイオテクノロジー、量子技術、マテリアル、宇宙、海洋、環境エネルギー、健康・医療、食料・農林水産業等

知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

- (1) **多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築**
 - ・ 博士課程学生の処遇向上とキャリアパスの拡大、若手研究者ポストの確保
 - ・ 女性研究者の活躍促進、基礎研究・学術研究の振興、国際共同研究・国際頭脳循環の推進
 - ・ 人文・社会科学の振興と総合知の創出（ファンディング強化、人文・社会科学研究のDX）
- (2) **新たな研究システムの構築（オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進）**
 - ・ 研究データの管理・利活用、スマートラボ・AI等を活用した研究の加速
 - ・ 研究施設・設備・機器の整備・共用、研究DXが開拓する新しい研究コミュニティ・環境の醸成
- (3) **大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張**
 - ・ 多様で個性的な大学群の形成（真の経営体への転換、世界と伍する研究大学の更なる成長）
 - ・ 10兆円規模の大学ファンドの創設

一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成

探究力と学び続ける姿勢を強化する教育・人材育成システムへの転換

- ・ 初等中等教育段階からのSTEAM教育やGIGAスクール構想の推進、教師の負担軽減
- ・ 大学等における多様なカリキュラムやプログラムの提供、リカレント教育を促進する環境・文化の醸成

社会からの要請
知と人材の投入

(1) ICT重点技術の研究開発プロジェクト

- AI
- 量子通信
- サイバーセキュリティ

(2) 基金による重点技術の研究開発の支援

- Beyond 5G
- 宇宙

(3) ICTスタートアップの支援

- スタートアップ

(1) ICT重点技術の研究開発プロジェクト

■ AI

① 多言語翻訳技術

AI ①

② 大規模言語モデル (LLM) 学習用日本語データ

AI ②

■ 量子通信

■ サイバーセキュリティ

(2) 基金による重点技術の研究開発の支援

(3) ICTスタートアップの支援

多言語翻訳技術の研究開発の成果

- 訪日・在留外国人対応等を想定した**18言語の逐次翻訳**において、令和6年度時点で**TOEIC900点相当の翻訳精度**を実現。
- さらに、2024年度までに重点対応言語を**21言語に拡大**する予定。

多言語音声翻訳アプリ

VoiceTra®



対応言語(31言語)

重点対応言語（実用レベル）

訪日・在留外国人対応等を想定した**18言語**

日本語	スペイン語
英語	ブラジルポルトガル語
中国語	フィリピン語
韓国語	アラビア語
タイ語	イタリア語
インドネシア語	ドイツ語
ベトナム語	ヒンディ語
ミャンマー語	ロシア語
フランス語	ウクライナ語

クメール語 ネパール語 モンゴル語
（研究開発を通じて2024年度までに重点化）

ウルドゥ語 オランダ語 シンハラ語
デンマーク語 トルコ語 ハンガリー語
ポーランド語 ポルトガル語 マレー語 ラオス語

2025年の大阪・関西万博も見据え、ビジネス・国際会議等での議論に利用できる、文脈・話者の意図等を補う**同時通訳**の実現に向けて、研究開発を実施中。



ボイストラ(VoiceTra)アプリ



多言語翻訳技術の社会実装の成果

- 平成29年度から、開発した翻訳エンジンをライセンス契約により民間企業に開放。
- 同翻訳エンジンを活用したサービスが30以上展開され、防災・交通・医療等の分野において、多くの官公庁・自治体が採用。



音声翻訳サービスの例

ポケットク(株)
「POCKETALK® S」



※国内の他、北米でも
販売台数を伸ばしている。

TOPPAN(株)
「VoiceBiz® UCDisplay」



Fairy Devices(株)
「Fairy I/O® Tumbler
T-01」



RemoSpace(株)
「eTalk5 みらいPFモデル」



コニカミルタ(株)
「医療通訳タブレット
MELON」



テキスト翻訳サービスの例

(株)川村インターナショナル
「みんなの自動翻訳
@KI (商用版)」



(株)十印
「T-tact AN-ZIN®」



NTTコミュニケーションズ(株) 東芝デジタルソリューションズ(株)
「COTOHA® Translator」 「DOCCAI翻訳」



DOCCAI 翻訳

(株)みらい翻訳
「Mirai Translator®」



多言語翻訳技術における関係省庁・分野連携の取組状況

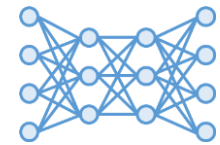
翻訳技術の高度化・多分野化

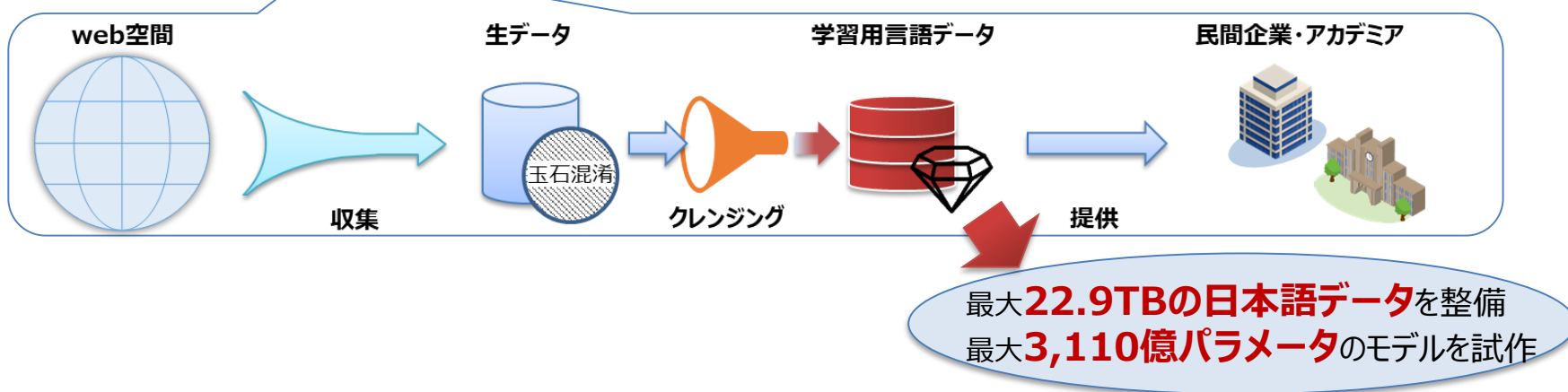


公的機関による導入事例

- 警察庁、金融庁、総務省、消防庁、法務省、外務省、財務省、厚生労働省、農林水産省、特許庁、環境省 等
(各省庁からの聞き取りを元に掲載)
- 自治体においても、多言語翻訳サービスの導入・運用経費を対象とした特別交付税措置等を活用して導入が進展

- 令和5年度から、大規模言語モデル（LLM）の学習用言語データとして、日本語データの整備を開始。令和6年8月時点で、最大**22.9TBの日本語データ**を整備し、最大**3,110億パラメータ**のモデルを試作（日本語の学習用言語データとしては**世界最大級**）。
- 整備した学習用言語データは、民間企業やアカデミア等が活用（例：共同研究契約に基づき、令和6年7月からKDDIにデータ提供開始）。

	 学習用言語データ	 計算機	 生成AI（LLM）	 偽・誤情報への対応等
主な取組	○ Web上から収集したデータを基にクレンジング作業を行い、 「AI学習に適した高品質な日本語データ」 を整備し、国内AI開発企業等に提供	〔LLMの開発に必要な大規模計算機資源の整備を経産省が支援〕	〔民間企業等がLLMを開発〕	○ 偽・誤情報をはじめとした生成AI等に起因する様々なリスクに対応するための技術の開発・実証を実施



(1) ICT重点技術の研究開発プロジェクト

■ AI

■ 量子通信

① 量子暗号通信

量子通信 ①

② 衛星量子暗号通信

量子通信 ②

■ サイバーセキュリティ

(2) 基金による重点技術の研究開発の支援

(3) ICTスタートアップの支援

量子暗号技術の研究開発の成果

- 我が国の量子暗号通信装置は、300kbps@50kmの鍵生成レートを実現し、**世界トップレベルの性能**。令和6年4月時点で、**世界10か国以上のテストベッドに導入**され、実証試験に活用。
- 令和5年度には、**企業間を接続した国内初のテストベッドを構築**し、実利用を想定した実証試験を実施（令和6年10月時点で、政府機関や金融機関など22機関が利用中）。

日本製の量子暗号通信装置

【NEC製】



鍵生成レート 200kbps@50km

【東芝製】



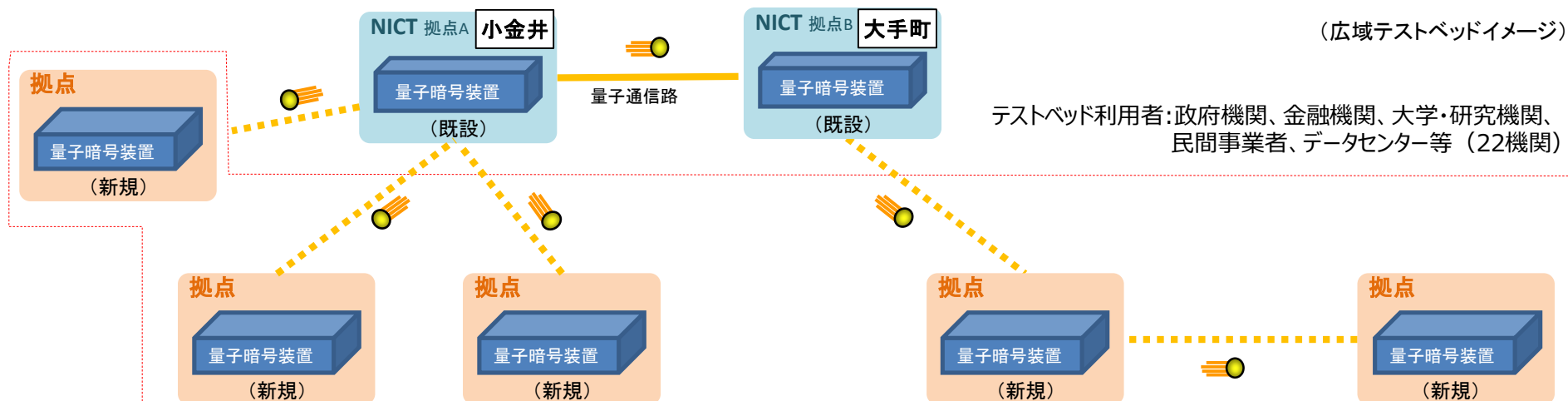
長距離QKDシステム

300kbps@50km（世界トップレベル）

海外での導入状況

- アメリカ、カナダ、英国、EU、韓国、シンガポールなどの量子暗号通信テストベッドに日本製の量子暗号通信装置が導入・活用。
- 現地の政府機関や金融機関、通信事業者と協業し、実証試験を実施。

企業間量子暗号ネットワークテストベッド



(1) ICT重点技術の研究開発プロジェクト

■ AI

■ 量子通信

■ サイバーセキュリティ

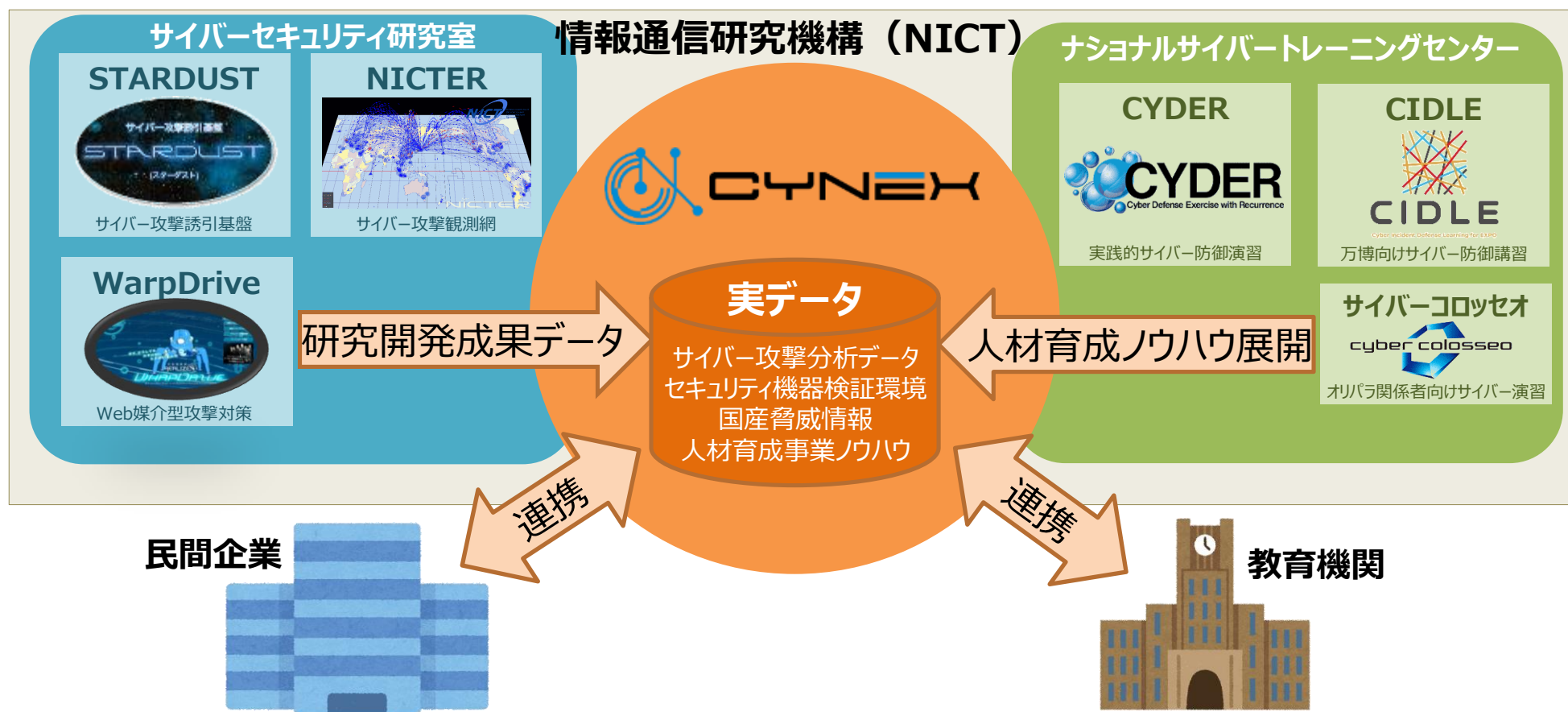
① 研究開発・人材育成の産学官連携拠点(CYNEX)

サイバー
セキュリティ

(2) 基金による重点技術の研究開発の支援

(3) ICTスタートアップの支援

- サイバーセキュリティ情報を国内で収集・蓄積・分析・提供するとともに、社会全体でサイバーセキュリティ人材を育成するための共通基盤として、令和3年度に、**CYbersecurity NEXus (CYNEX)**を構築。
- 令和6年9月末現在、**産学官から74組織**が参画。

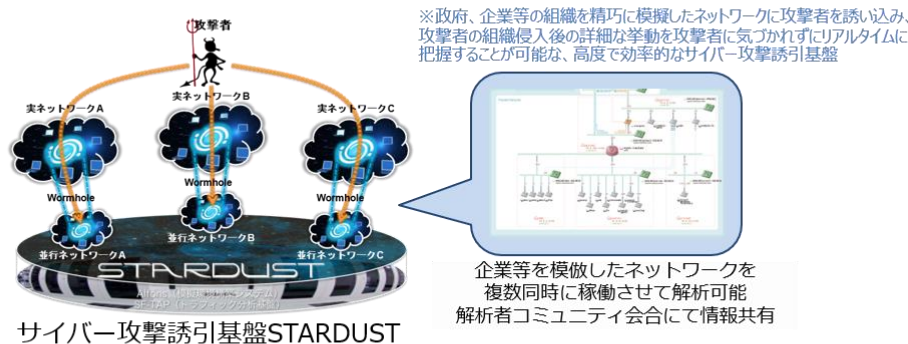


CYNEXの成果

- **約180名の解析者**によるコミュニティを構築し、**年間450件以上**の攻撃者挙動を解析、適宜関係機関に共有。
- **55名の高度セキュリティ解析者**（Security Operation Center人材）を**育成**（育成中を含む）。
- **6社8製品の国産セキュリティ製品・サービス**について、**精度検証や長期運用検証**を実施。
- **74種類の演習教材**（CYDERの演習教材を含む）を開発、参画機関に**演習環境とともに提供**。

Co-Nexus A (Accumulation & Analysis)

- 目的：STARDUST[®]を核とした共同解析と解析者コミュニティ形成



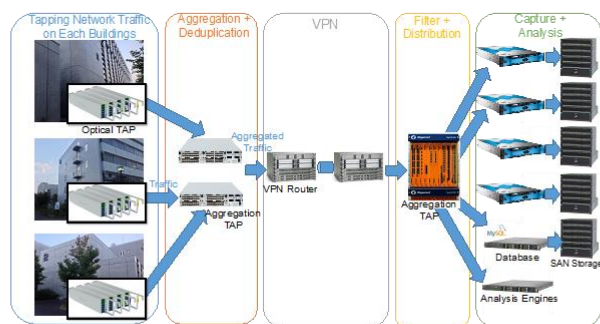
Co-Nexus S (Security Operation & Sharing)

- 目的：CYNEX独自の脅威情報の生成・発信と高度な解析者の育成



Co-Nexus E (Evaluation)

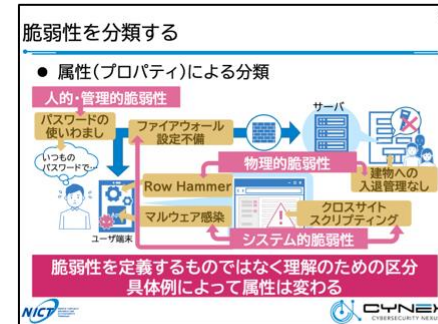
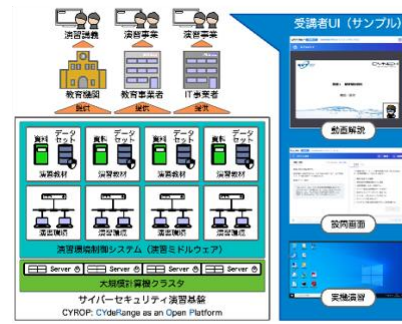
- 目的：国産セキュリティ製品のテスト環境提供による実用化支援



Co-Nexus C (CYROP[®])

*CYROP: CYDERANGE as an Open Platform

- 目的：演習基盤解放によるセキュリティ人材育成事業の活性化



CYNEXオリジナル演習教材

(1) ICT重点技術の研究開発プロジェクト

(2) 基金による重点技術の研究開発の支援

■ Beyond 5G

① Beyond 5G研究開発促進事業

Beyond 5G ①

② 革新的情報通信技術基金事業

Beyond 5G ②

■ 宇宙

(3) ICTスタートアップの支援

Beyond 5Gの推進に向けた基金事業

- 令和2年度より、令和4年度までの3年間を研究開発期間とする「**革新的情報通信技術研究開発推進基金**」等を活用し、Beyond 5Gの**要素技術の早期確立**を目的とした研究開発を推進。
- 令和5年度からは、「**情報通信研究開発基金**」を活用し、①オール光ネットワーク関連技術、②非地上系ネットワーク関連技術、③セキュアな仮想化・統合ネットワーク関連技術を中心として、**社会実装・海外展開を目指した研究開発・国際標準化**に対する支援を実施。

Beyond 5G研究開発促進事業（旧基金等）

事業期間：R2～R4年度

目 的：Beyond 5Gの要素技術の早期確立を目的とした研究開発

設置法人：情報通信研究機構（NICT）

革新的情報通信技術研究開発推進基金

（R2補正：300億円）

※研究開発期間R2～R4年度の時限基金

革新的情報通信技術研究開発推進補助金

（R3補正：200億円、R4当初：100億円）

Beyond 5Gの要素技術
の早期確立を目的

革新的情報通信技術（Beyond 5G（6G））基金事業（新基金）

事業期間：R5年度～

目 的：社会実装・海外展開を目指した研究開発・国際標準化に対する支援

設置法人：情報通信研究機構（NICT）

情報通信研究開発基金

合計1,161.4億円

（R4補正：662億円、R5当初150億円、
R5補正190億円、R6当初159.4億円）

主に社会実装・海外展開を
目指した研究開発・国際標準化

研究開発基金

□基金＜令和2年度第3次補正予算：300億円＞

テラヘルツ波、宇宙ネットワーク関連技術を中心に合計47課題※の研究開発を実施。

※（内訳）基幹課題：6件、一般課題：20件、国際共同研究型：3件、シーズ創出型：18件（うち3件は助成）

研究開発補助金

□一般型＜令和3年度補正予算：200億円＞

オール光ネットワーク、光電融合技術を中心に合計20課題※の研究開発を実施。

※（内訳）基幹課題：4件、一般課題：6件、国際共同研究型：2件、シーズ創出型：8件

□電波有効利用型＜令和4年度当初予算：100億円（電波利用料財源）＞

Open RAN無線通信技術を中心に、合計11課題※の研究開発を実施。

※（内訳）基幹課題：4件、一般課題：3件、シーズ創出型：4件

特許出願：648件
（うち外国出願：328件）

外部発表：1821件※1

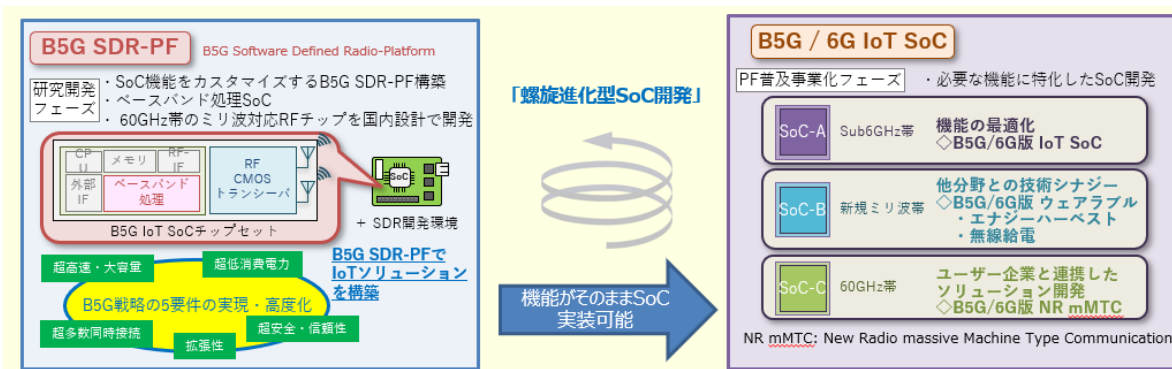
標準化提案：149件※2
（採択：36件）

※1 令和3年度及び令和4年度の研究論文、小論文、収録論文、外部機関紙論文、査読付収録論文、一般口頭発表等の件数

※2 標準化を目的にした寄書、提案。ITU、ISOなどの公的国際標準化機関への直接的標準化提案だけでなく、標準化を目指したフォーラムなどの団体・グループへの提案や、WG設立への提案を含む

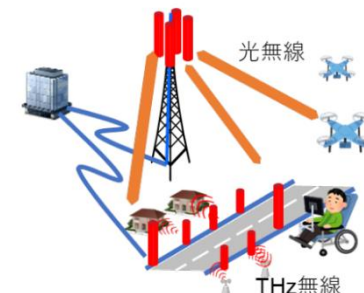
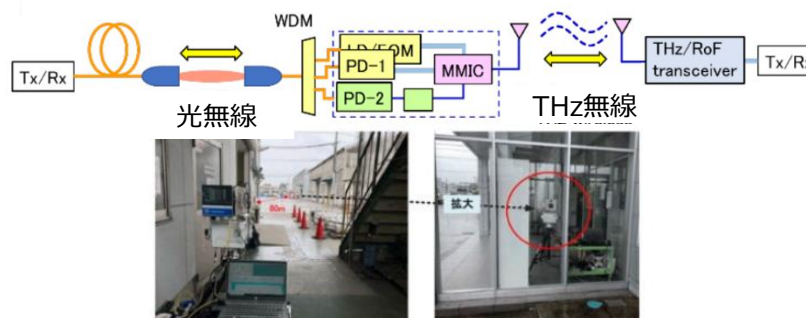
継続的進化を可能とする B5G IoT SoC及びIoTソリューション構築プラットフォームの研究開発

- 継続的な進化に対応可能なB5G IoT端末向けSoCの研究開発を実施。**端末と基地局を総合して機能改変を行う事が出来る開発環境（B5G SDR-PF）を構築。**
- **令和5年12月に1st Test Chipの試作が完了。**令和6年度に実証予定。日本国内で設計を完結したチップセットの市場投入を目指す。



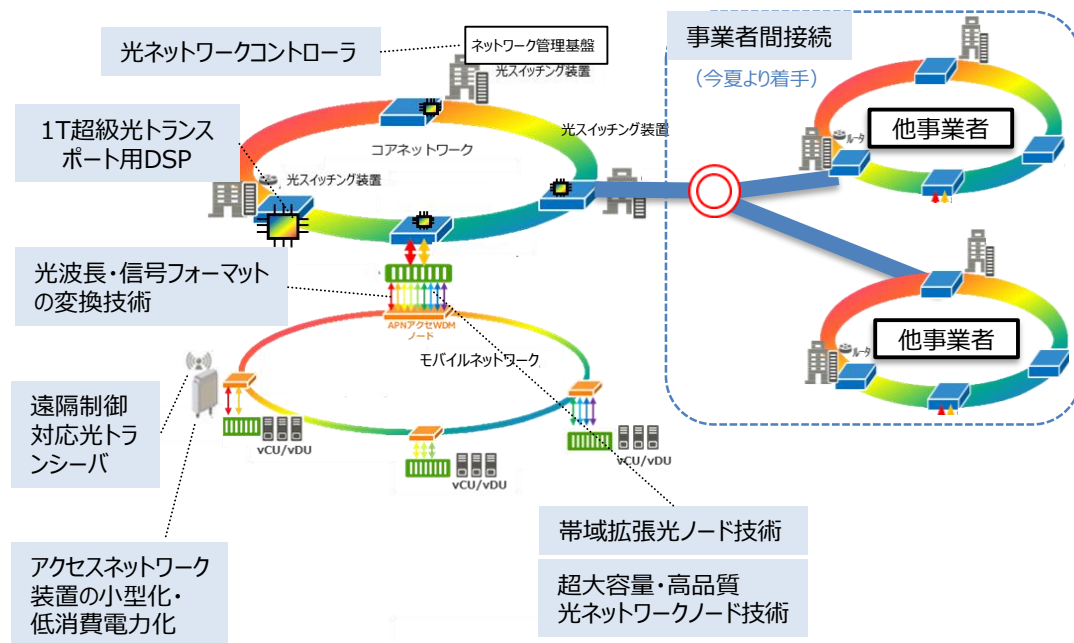
Beyond 5G 超大容量無線ネットワークのための電波・光融合無線通信システムの研究開発

- 最新の電波／光通信・制御技術、ネットワーク技術をフル活用して、基幹光ファイバ通信ネットワークとの接続性・拡張性と移動体（ドローン、低速走行車）に高品位無線通信環境を提供する技術を追求。
- 光と無線の相互信号変換技術において、**国内トップレベルの光電変換効率を有する光半導体素子を開発し、それを組み込んだ小型・可搬型トランシーバを開発。**



オール光ネットワーク関連技術

採択件数: 7 件 主な事業者: NTT、NTTインベティブデバイス、富士通、NEC



仮想化ネットワーク関連技術

採択件数: 5 件 主な事業者: NEC、楽天モバイル、BBSakura Networks

端末を含むネットワークの仮想化により、エンドツーエンドでサービス品質の保証や継続進化可能なソフトウェア化を図る。

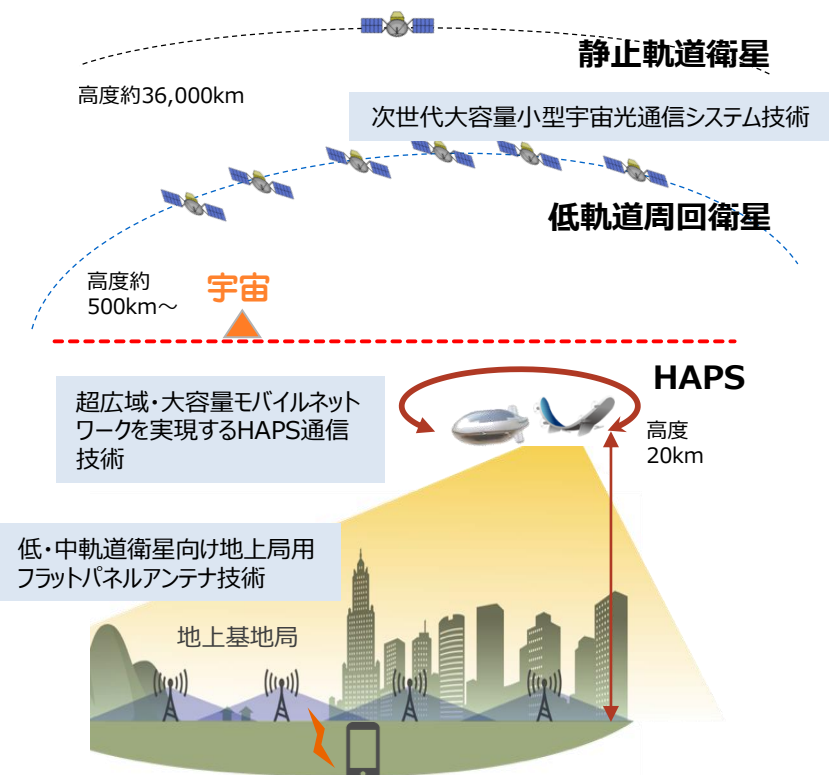
非地上系ネットワーク関連技術

(衛星通信)

採択件数: 3 件 主な事業者: ソニーグループ、シャープ、ソフトバンク

(HAPS)

採択件数: 2 件 主な事業者: ソフトバンク、Space Compass



(1) ICT重点技術の研究開発プロジェクト

(2) 基金による重点技術の研究開発の支援

■ Beyond 5G

■ 宇宙

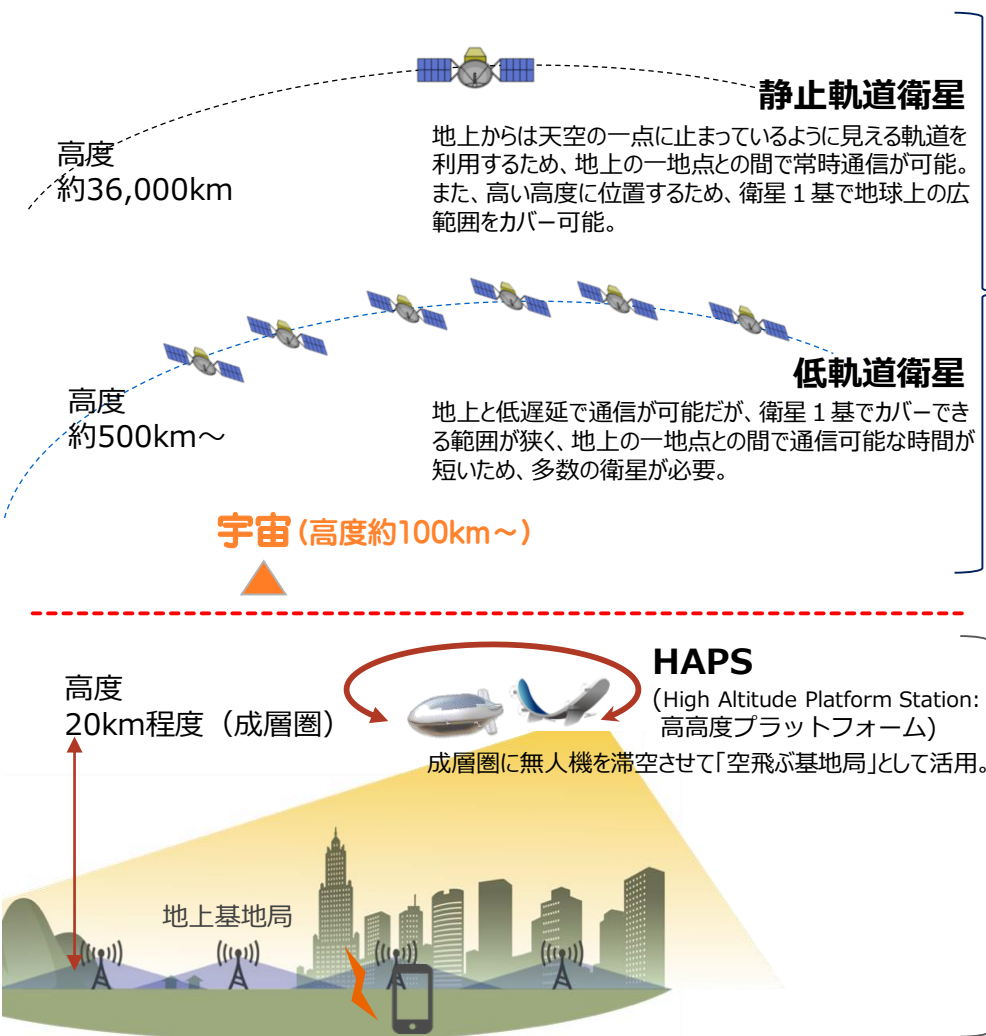
① 宇宙戦略基金

宇宙

(3) ICTスタートアップの支援

宇宙戦略基金の創設

- 宇宙関連市場の拡大等を図るため、令和6年3月に宇宙戦略基金が創設。令和6年7月から9月にかけて公募が実施され、現在審査中。



● 宇宙戦略基金による支援



宇宙戦略基金について、速やかに、総額1兆円規模の支援を行うことを目指すとともに、非宇宙のプレーヤの宇宙分野への参入促進や、新たな宇宙産業・利用ビジネスの創出、事業化へのコミットの拡大等の観点からスタートアップを含む民間企業や大学等の技術開発への支援を強化・加速する。

(宇宙基本計画工程表改訂に向けた重点事項 (令和6年5月31日宇宙開発戦略本部決定))

事業全体の目標 (3 Goals)

① 宇宙関連市場の拡大
(2030年代早期に
4兆円⇒8兆円 等)

② 宇宙を利用した
地球規模・社会課題解決
への貢献

③ 宇宙における知の探究
活動の深化・基盤技術
力の強化

(HAPSについてはBeyond 5G(6G)基金において支援)

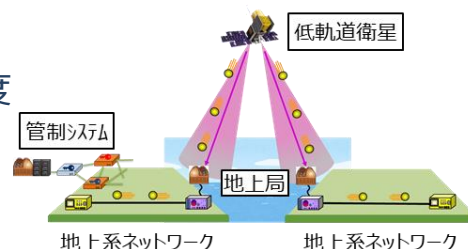
衛星等

衛星量子暗号の通信技術の開発・実証

距離に依らない堅牢なセキュリティ環境を実現する量子暗号通信網の構築に向けた衛星搭載用の通信機器 及び地上局設備の開発・実証

支援規模：145億円/ 1 件程度

支援期間：5 年間程度

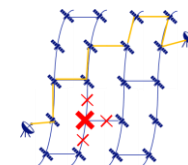


衛星コンステレーションの構築に必要な通信技術の実装支援

大容量リアルタイム通信が可能な衛星間光通信におけるキー技術として、相互運用性、高速性、安定性等を備えたネットワークに必要な光ルータ等の技術開発

支援規模：19億円/ 1 件程度

支援期間：3 年間程度



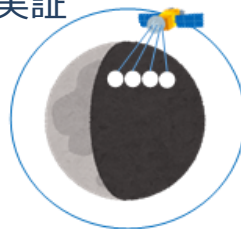
探査等

月面水資源探査技術

センシングによる効率的な月面水資源探査に向けた、小型軽量なセンサを搭載した小型衛星の開発・実証

支援規模：64億円/ 1 件程度

支援期間：4 年間程度

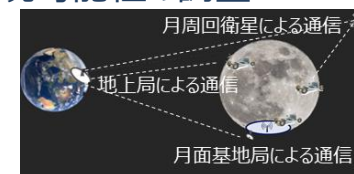


月-地球間通信システム開発・実証FS

月-地球間における大容量かつ高精度捕捉等が可能な通信アンテナの開発に向けた基本設計、高品質・高信頼性のモバイル通信環境の実現可能性の調査

支援規模：5 億円/ 1 件程度

支援期間：1 年間程度



(1) ICT重点技術の研究開発プロジェクト

(2) 基金による重点技術の研究開発の支援

(3) ICTスタートアップの支援

■ スタートアップ

① 異能 (Inno) vation

スタート
アップ①

② スタートアップ創出型萌芽的研究開発支援事業

スタート
アップ②

- 平成26年から令和4年度までの10年間、破壊的なイノベーションに挑戦する社会的な雰囲気醸成を目的とし、奇想天外なアイデアや人材の発掘と支援するプログラム「異能vation」を実施。
- 同プログラムを通じて、**120人の異能β（卒業生）を輩出**。令和6年4月現在、異能βは**起業率3割以上、資金調達総額161億円以上**を達成。

施策内容

～「出る杭」を認め、失敗を恐れずに
挑戦する雰囲気の醸成～

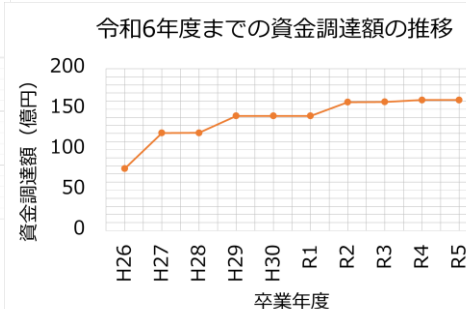
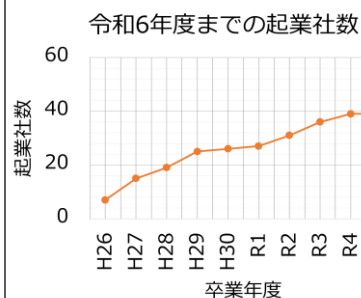


- ・ 起業前の優れたアイデアを発掘し、世界規模の新たな価値を創造する奇想天外で野心的な破壊的イノベーションへの挑戦を支援。
- ・ 支援額：最大300万円（支援期間1年）
- ・ 卒業評価を通過した者を異能β（卒業生）として認定。

民間取組との連携

- ・ 民・地域・グローバルと連携したアイデア・人材発掘のエコシステムを推進。
- ・ 地域とグローバルのネットワーク拠点により異能vationを広報・公募
- ・ 異能の挑戦者及び異能β（卒業生）は協力協賛企業による民間支援（グランドチャレンジ）にも参加可能

主な事業成果



異能β

卒業生

（尖った特異な人材）

- ・ 異能βの**起業率3割以上、資金調達総額161億円以上**
- ・ 破壊的なICTイノベーションに挑戦する雰囲気の醸成
- ・ 周知広報活動を通じた**各地域の協力拠点**の形成（53 箇所）
- ・ 賞金や表彰を提供する**協力協賛企業**の増加（225 組織） 等

活躍する異能挑戦者の例

令和2年度挑戦者がイグ・ノーベル賞を受賞
～「『味覚メディア』の創出」～

宮下 芳明 氏（R2年度採択）

2020年の異能vation（破壊的な挑戦部門）にて、液体を噴霧混合することで、液晶画面で表示された料理コンテンツの味を体験できる「**味ディスプレイ**」を試作。2023年、2011年に発表した論文「Augmented Gustation using Electricity（微弱な電流を流すストロー・箸・フォークによって飲食物の味を変えて食体験の味覚を拡張するビジョンを掲げたもの）」に対し、「**イグ・ノーベル賞（栄養学賞）**を受賞。

スタートアップ創出型萌芽的研究開発支援事業の創設

- 令和5年度より、異能vationの成果を受け継ぐ後継施策として、よりスタートアップの創出に力点を置いた「スタートアップ創出型萌芽的研究開発支援事業」を開始。
- 令和5年度は40件（フェーズ1：23件、フェーズ2：17件）、令和6年度は22件（フェーズ1：7件、フェーズ2：15件）のICT分野のスタートアップを採択。
- 併せて、民間の有志企業等の協力を得て、「ICTスタートアップリーグ」という官民一体の支援の取組を推進。

● 事業概要図 ●

フェーズ 1 (PoC・F/S)	フェーズ 2 (実用化開発)	フェーズ 3 (事業化準備等)	出口市場 (公共調達等)
最大300万円 (1年間)	最大2,000万円 (1年間)	民間資金による 支援	自律的な 事業運営へ
芽出しの研究開発から事業化まで 一気通貫での伴走支援			



● 支援の概要 ●

【フェーズ 1】	【フェーズ 2】
研究開発費の支援	
これから本格的に起業や事業化を目指す個人若しくはグループ又は起業して間もないスタートアップなどが行うICTの研究開発を支援。	事業の確立、拡大を目指し、技術の事業化、事業計画のブラッシュアップ等に取り組む個人、グループ又はスタートアップが行うICTの研究開発を支援。
開発支援金：最大300万円／年	開発支援金：最大2,000万円／年
伴走支援	
以下の伴走支援を行い、スタートアップの立ち上げや成長を支援・促進。	
● 専門家による起業、開発、実用化への助言 ● 実用化に係る事務的な支援(購買、物品管理、特許取得フェーズ等) ● 開発、起業ノウハウに関する勉強会 ● ピッチ、マッチングイベントの開催 ● 人材確保のフェーズ ● 展示会への出展支援	

民間取組との連携例

民間独自のイベントへの
採択者の参加

